

令和4年度 長門市立仙崎小学校 研修概要

1 研究主題

主体的に表現できる子どもの育成 ～ 振り返りの充実と活用 ～

2 主題設定の理由

新学習指導要領では、学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となり、社会がどんなに変化して予想困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動することで、それぞれに思い描く幸せを実現し、明るい未来を創ることができるようにという願いが込められている。

「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、子どもたちが「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」という「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業づくりが求められる。そこで、子どもたちが仲間や自己と対話し、自己の学びを次の学びや社会につなげていくことができるよう、学ぶ意義や学びのよさを実感しながら自己の学びを整理できるような振り返りが課題となってくる。

本校では、令和2年度より「主体的に表現できる子どもの育成～問いや思いが膨らむ・つながる対話的な学びと振り返り～」を研究主題とし、①対話が生まれる問い・学習課題の工夫 ②対話的な学びづくり ③授業と授業をつなぐ振り返りの工夫に焦点を当てて研究を進めてきた。令和3年度は、「振り返りの中身」を充実させるために「主体的に表現できる子どもの育成～問いや思いが膨らむ・つながる対話的な学びと振り返りの充実と活用～」を研究主題とし、③学びが見える振り返りの充実と活用を目指し、「深い学び」に向けて振り返りの中身を充実させることに視点を当てて研究を進めてきた。どんな振り返りを子どもが書けるとよいかイメージして授業づくりをすることで、子どもが主体となる授業づくりや、振り返りを使った導入・課題提示などを仕組むことにつながってきた。また、自分の考えがどのように変わったのか、何がきっかけで解決の糸口をつかんだのか、今までの学びを活用することができたかなど、学び方を少しずつ意識できるようになってきている。しかし、子どもたちの学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）を見取り、評価することや、授業での学びとセットとなる振り返りの視点を工夫することにおいては、さらに研究する必要がある。

そこで、今年度は「深い学び」に向けて振り返りの中身をより充実させ、子どもの振り返りから「自ら学びに向かう態度」を見取り、授業改善していくことで研究主題に迫りたいと考えた。自己の学びを振り返ることで、子どもたちは学びを実感し、学びに向かう力が高まるであろう。全教職員が学びを自覚できる授業づくりをしたり、学びとセットとなる振り返りの視点を工夫したりすることで、自己の学びを整理し、主体的に表現できる子どもの育成をめざして研究を進めた。

3 研究仮説

主体的に学ぶことのできる発問の工夫や、学びとセットとなる振り返りの視点を設けることで、子どもたちは学びを自覚化し、主体的に学習に取り組む中で主体的に表現する力が育つであろう。

4 めざす子ども像（各ブロックごとに具体的な姿で設定）

低学年	友だちの考えと比べながら聞き、自分の言葉で表現できる子ども
中学年	友だちの考えを受け止め、自分の考えを話すことができる子ども
高学年	自分の思いや考えをもち、自分に合った表現でつたえることができる子ども
特別支援	自分の思いをもち、進んで相手に伝えようとするすることができる子ども

5 研究の方向性（研究内容）

（1）対話が生まれる問い・学習課題の工夫

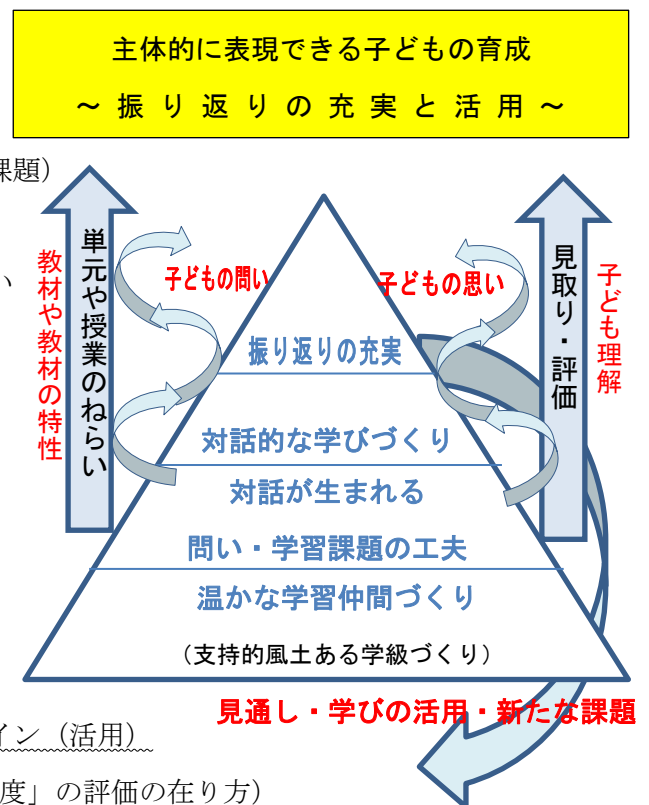
- ・ 必要感・必然性のある
学習課題の設定の工夫（単元・本時の学習課題）
- ・ 課題を追究する問い・ゆさぶる問いの工夫
- ・ 自己の理解や学びを振り返ることのできる問い

（2）対話的な学びづくり

- ・ 対話の土台となる温かな関係づくり
- ・ 反応すること・聴く態度を育てること
- ・ 子どもの思考の言語化と見取り
- ・ 自己や他者と対話できる場づくり

（3）振り返りの充実と活用

- ・ 学びとセットとなる振り返りの視点の工夫
- ・ 子どもの振り返りを生かした単元や授業デザイン（活用）
- ・ 振り返りの評価（「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方）



6 研究の方法

（1）公開授業

- 指導者を招聘する全校授業・・・3回（低学年・中学年・高学年） ※総案作成
- 一人一授業（全員公開授業）・・・所属ブロックで授業公開を行い、放課後ミニ研修を行う。

研究主題・めざす子どもの姿を意識した学習指導案の作成と授業評価

※本時案作成

（2）学年・ブロック間による教材研究・授業研究や教職員全体でのふらっと参観

（3）児童や外部による授業評価・・・学期に1回

7 研修計画

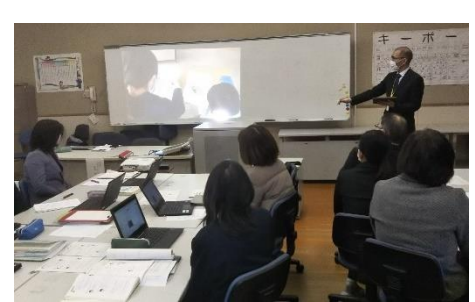
月	日	研修内容	備考
4月	12日(水)	◎子どもの実態把握・めざす授業観の共有 第1回校内研修会 ・学習規律, 研究の進め方, 指導案形式の提案	
5月	18日(水)	◎授業づくりの方向性をそろえる 第2回校内研修会 ・研究主題, 研究内容 ・学習課題, 振り返り, 評価について	※めざす子どもの姿の決定 ※授業者決定
6月	22日(水)	◎授業の具体の研修を深める 第3回校内研修会 校内授業研究 教科【算数】: 4年生教材を使った授業づくり	
8月	10日(水) 25日(水)	第4回校内研修会 ・1学期の研修の振り返りと2学期の授業構想 第5回校内研修会 ・一人一台タブレットの活用に関する研修	
9月	13日(火)	第6回校内研修会 校内授業研究 授業者(山本 昌寛) 教科【算数】	参観日: 保護者による授業評価
10月	19日(水)	第7回校内研修会 ・県学力定着状況確認問題の採点と考察	
11月	29日(火)	第8回校内研修会 校内授業研究 授業者(川村 真理恵) 教科【算数】	※通・仙崎みずぶ学園での授業公開を兼ねる
12月	冬休み	・2学期の研修の振り返り	
1月	25日(水)	第9回校内研修会 校内授業研究 授業者(島田 和俊) 教科【算数】	
2月	8日(水) 22日(水)	◎研究のまとめ 研究紀要について 第10回校内研修会 ・本年度の研究の振り返り(成果と課題の整理) 第11回校内研修会 ・研究のまとめと来年度に向けての方向性	



9月13日 授業協議会



11月29日 1年公開授業



1月25日 授業協議会

8 研究の成果と課題

(1) 成果

① 対話が生まれる問い・学習課題の工夫

- 実物を示したり、身近な話題から入ったりすることにより、子どもたちの意欲が高まった。また、前時の振り返りを使った導入や、初発の感想から出た疑問を活用する等、子どもたちの発言を課題につなげることで、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。
- 多くの意見が出た時に、子どもたちに疑問形（「どれが一番ふさわしい?」「どれに納得?」など）で問い返すことで、自分事としてとらえ、理由とともに自分の考えを伝えようと全体での対話を生むことができた。
- 教師が「間違い」を提示することで、どこがなぜ間違えているのか納得させようと意欲的に伝えようとする姿が見られた。

② 対話的な学びづくり

- 自分の考えをしっかりと持つ（書く）時間を確保することで、抵抗なく自分の言葉で伝えられるようになってきた。また、高学年などはシンキングツールを用いて考えをまとめることで、視覚的にも考えが整理され、対話に向かう土台作りをすることができ、対話に参加する子どもが増えてきた。
- 発達段階に応じてペアやグループなどの形態を工夫することで、自分の考えと比べながら聞けるようになってきたので「そうか」「そこは同じだけど」等、新たな学びにつながった。

② 振り返りの充実と活用

- 振り返りをタブレットやノートにこだわらず、子どもの実態に合わせて行った（自分で選ぶことも）ことで、意欲的な子どもが増えた。個別に分かったことを話させてから書く活動に入ると、より効果的であった。
- 振り返りに視点を持たせることで充実した内容の振り返りになってきた。また、よい振り返りを紹介しながら、どの部分が良いのか補足説明することで、意識して書こうという姿勢につながってきた。
- 単元を通して振り返りの視点を設定することで、振り返りを活用した次時の授業の組み立てを考えることができた。

(2) 課題

① 授業とセットになった振り返りの視点

「主体的な態度」を評価するために振り返りを活用しているが、どのような視点で振り返りをすればより効果的に見取をすることができるのか、授業を通した視点の与え方を工夫していかなければいけない。自己の学びや学びの過程を振り返ることができるように、授業とセットになった振り返りの視点を研修していきたい。

② 主体的に学び続ける子どもを育てるための課題

子どもたちが主体的に学びたい必要感のある課題を工夫してきたことで、課題に対して主体的に考える子どもは増えてきたが、新たな学びの課題につながるまでには至っていない。子どもたち自身が当事者になり、学び続けられるような課題の追求を継続したい。